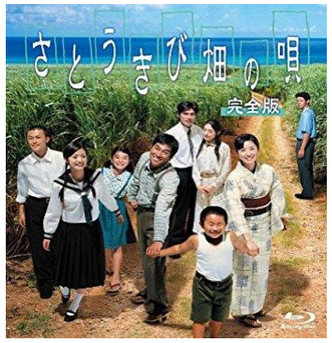
２年学年通信

「認め合い　支えあい　自分を磨く」

盾津東中学校
№２８
２０２１．３．５（金）

沖縄学習「さとうきび畑の唄」

来年度の修学旅行に向けて、沖縄について考える沖縄学習が始まりました。青い海、白い砂浜、暖かい気候と豊かな自然に恵まれたイメージのある沖縄ですが、自然と共に暮らす平和な沖縄は第二次世界大戦時、日本で唯一地上戦が行われる悲惨な戦地となったのです。『鉄の暴風雨』とされる１カ月で６８０万発もの砲撃や射撃を受け、米軍ですらも『ありったけの地獄を集めた』と言うほどの戦場と化していました。戦力は米軍５５万人に対して、日本軍はおよそ１０万（正規軍は８万人程度）。死者は米国側１万２５２０人に対して、日本側は１８万８１３６人（内軍人軍属は９万４０００人）。沖縄県民の４人に１人が亡くなる凄惨な状況であったと言われています。みなさんが沖縄の地を訪れることによって戦争の悲惨さと平和の尊さを感じられるように、沖縄について学んでいきましょう。みなさんのさとうきび畑の唄を観た感想文を紹介します。



～沖縄学習ＤＶＤ鑑賞「さとうきび畑の唄」あらすじ～

名曲「さとうきび畑」をモチーフにしたスペシャルドラマ。第二次世界大戦下の沖縄で必死に生きた家族の姿を描いた不朽の名作。那覇で小さな写真館を営む平山幸一は、写真を撮りにくる人たちの幸せそうな笑顔を見ているだけで嬉しくなってしまう、人の良い男。学校の先生をしている紀子との結婚が決まった長男・勇を筆頭に、次男・昇、長女・美枝など５人の子どもに恵まれ、今また美知子のお腹には６人目の命が宿っていました。しかし、昭和 19 年６月、サイパンの日本軍が玉砕し、米軍の沖縄上陸が現実味を帯びてからは、その幸せな一家にも戦争の暗い影が忍び寄ります。まず結婚直後の勇に召集令状が届き、昇は通信兵に志願、美枝も従軍看護婦として野戦病院に派遣されます。そんな中、戦況はますます悪化し、ついに 47 歳の幸一にも召集令状が届く。家族で過ごす最後の日、幸一は出征していく子どもたちに命の大切さを説くのでした。

お父さんの最後はとても勇敢で、カメラに残っていた写真はみんなが笑っていてみんな幸せにしてほしかったのに亡くなってしまって、とても悲しかったです。また、あの笑顔や話でみんなを笑わせてほしかったです。アメリカの人も同じ人間なので、なぜ降伏しなかったのか不思議に思いました。戦争はあってはいけないし、誰にも何も残らないものです。昔の人がたどり着いた平和、幸せを続けるとともに、この事実を後世にも語り継いでいかなければなりません。（１組）

この映画を観て、家族がバラバラになり、たくさんの尊い命が戦争のせいで奪われてしまったことを知って、今の生活のありがたさや平和の大切さがよくわかりました。戦争はいけないことだし、命を失ってしまうことだとは知っていたけれど、沖縄戦がこんなに酷いものだとは知らなかったので、とても胸が苦しくなりました。お母さんと子どもがアメリカ兵の人に助けられた場面が特に印象に残りました。「アメリカ兵も同じ人間」とお父さんが言っていたように助けてくれたアメリカ人も中にはいたのかなと思いました。お兄さんは私たちと同じくらいの年齢なのに亡くなってしまって、とても悲しかったです。これからも戦争のない世界になることを願おうと思いました。また、そんな世界をつくっていきたいなと思いました。（１組）

今回「さとうきび畑の唄」を見れて自分はとても良かったと思います。なぜかというと何も知らないまま３年生の修学旅行に行こうとしても、ただ、ただ沖縄に旅行・楽しみ目的で行ってしまうからです。修学旅行はあくまでも学びのために行っているので今日「さとうきび畑の唄」を見れて良かったと思います。自分がとても印象に残っているのが、お父さんが家族に対して「絶対に生きてください」と言っていたシーンです。このセリフは、お父さん役、お母さん役も言っていて、何回も言うことで強調しているんだなとも思いました。沖縄の地上戦はアメリカ軍の死者が約１万人に対し、沖縄は約９万人と、アメリカ軍の約９倍もの死者がでたので、今後一切このようなことはあってはならないと思いました。（１組）

「さとうきび畑の唄」を見て思ったことは、改めて戦争は悲惨なもので、恐ろしいんだと思いました。私は戦争はただ、ただ相手と戦うことだと思っていましたが、日本軍が日本人のことを殺したりすることもあるんだとびっくりしました。小さい子からお年寄りの人まで、容赦なく殺されていく姿に、とても心が痛みました。相手の人も敵ではあるけれど、この世界に生まれてきた同じ人間だということを実感させられました。家族がばらばらになって誰が生きているのか、もしくは、まだ生きているかすら分からない状況なんて今では絶対考えられないことで、今、自分が生きている中で得ている幸せがどれだけ大切か感じることができました。過去にそんなことがあったからこそ今の日本があるのかなと思いました。（２組）

沖縄の人が逃げてく中で、血を流す場面や倒れた人ばかりのシーンは目をそらしたくなりました。私たちはビデオを見ても、実際自分が体験することではないと思うことができます。当時、本当の戦争を経験した人は、見たくなくても苦しむ人を見て、信じたくなくても大切な人の死を知ったのだとビデオから感じました。「みんな同じ人間」「笑うと人は優しくなる」この言葉はすごく心に残りました。（２組）

戦争について授業を受けたり話を聞いたことは何回もあったけど、初めてこんなにリアルに再現されてるビデオを見て、感動もしたし、怖いなって思いました。主人公の家族が当たり前のように生活してたのに、一瞬でそれが壊れてしまうっていうのが怖かったです。次男も長男もみんな強気で生きててほんまにすごいなと思いました。普通やったら怖くて逃げてしまいそうになる場面でもくじけずに、自ら前に出て行ったりしてるのが格好いいしすごかった。お母さんとかあの子ども達とか見てると、諦めんと頑張って生きとったら、良い事も起こるし、幸せになれるんやなって思いました。戦争は怖いし二度とやったらいけないと思いました。家族、友達、身近な人を、自分を大切にしようと思いました。（２組）

「さとうきび畑の唄」という作品を見ての感想は今まで、沖縄戦はいつ、どこで、どのようなことがあったのか～みたいな授業はしていたけれど、それが映像、さらに実写になっていてすごく当時の沖縄の状態が分かりやすいなと思いました。そして、戦争をしていた当時の人々はすごい天皇への信じる気持ちがあるんだなと思いました。自決する人々や諦める人々も出ていたので「アメリカ軍が悪い！」と思いきっているのかな？と思いました。主人公の家族は降伏することで助かっていたので、お父さんの言葉を信じて降伏する勇気がすごいなと思いました。自分が戦争に放り込まれたら、絶対無理だなと考えながら見ていました。（３組）

「さとうきび畑の唄」を見て、戦争はそれまで築いてきた物や幸せを一瞬で壊してしまう恐ろしいものだと改めて思いました。御国のため、天皇様のためと言って子ども達を洗脳しているようにも見えました。戦死することが名誉など今では考えられない事を教えていたので自分があの時代にいたらどうなっていただろう。と考えるとゾッとします。今、日本では戦争をしていないけど過去を振り返っては、あの惨劇を繰り返してはいけないと、心に刻んで忘れないようにしていきたいです。（３組）

私は広島や大阪であった戦争は小学校のときに学んだので知っていましたが、沖縄戦争について深く学んだのはこれが初めてでした。陸上戦の恐ろしさはお互いが相手の顔を見て殺し合うことだと思います。日本人もアメリカ人も自分の意志で殺そうと思っているのではなく、軍や国からの命令で相手を殺さなければいけないので、本当に全員が苦しい思いをしていたのだろうと思いました。お父さんの「同じ人間だから」という言葉には相手も同じ心を持っているから殺してこないだろうという意味と、同じ人間だからこそ戦ってはいけないという意味が込められていたように感じました。今のこの世界も完全に平和なわけではないですが、本当に誰かの犠牲や争いがないと築けない世界だったのか考えさせられました。（３組）

「さとうきび畑の唄」を見て、たった約７０年前にこんな恐ろしい事があったんだなと思いました。生きたいと言っただけで殺されたり、赤ちゃんの口を塞げと言われたり本当に怖いなと思いました。この映画は現実感があったので戦争は絶対にあってはいけないという気持ちが強まりました。本当の怖さは、戦争を体験した人しか分からないと思うけど、こういう映画を見ただけで、とても辛いし苦しいし怖いなと思うから、戦争を体験した人は、目の前で自分の家族や友達を亡くしていって、自分では分からないほど辛いし悔しかったと思います。だから、こんな何もしていない人たちを無意味だと殺していく戦争は、これから絶対起こしてはいけないし、戦争のことを伝えていくことが大切だなと思いました。（４組）

私は「さとうきび畑の唄」を見て、沖縄ではたくさん育てているさとうきびの畑の過去には人が人を殺し合う戦争の辛さや、当時の人々が必死に生きようとしていたことがあったということを感じました。また「天皇のために命をかけて戦う」という考えは、今では考えられない事だと思ったけれど、当時の人はそれがおかしいと思っても、反抗すると無差別に殺されたりするので、反抗することすらできないことに悲しい気持ちになりました。なので沖縄のきれいな海の奥には悲しいことがあったことを忘れないようにしたいです。（４組）

今回「さとうきび畑の唄」という作品を観て、この作品を観終わったときに、感動と言ったらダメかもしれないですが、表せない何かが心にグッときました。この感情は何なのかと考えたときに、一番初めに思ったのは、人間という１人にたった１つの生命をなぜ大切にすることができないんだろうと怒りの気持ちが湧いてきました。特に印象に残っているのは、お父さんが子ども達に死んでほしくないと言っていた場面です。僕が親の立場だったら同じことを言っていると思います。昔は戦争があってたくさんの人が苦しい思いをしたと思います。今その戦争が日本にないということを感謝しないといけないと思いました。（４組）

実際に戦争を見ていないから、そのときの様子はわからないけど、すごくリアルに感じました。家族がバラバラになって傷ついていく姿は、たとえドラマであっても見ているのがすごく苦しかったです。戦争中でも笑顔を絶やさなかったお父さんは本当に素敵だと思ったし、父の想いを受け止めて最後まで生きることを諦めなかった子どもたちやお母さんも素敵で感動しました。戦争は誰にとっても‘苦しみ’だし、現代に生きる私たちには計り知れない辛さがあるということを改めて考えさせてくれる映画を観れたことはとても貴重で大切な経験だと思います。７５年前にあった残酷な事実から目を背けず、戦争のことを学ぶ時間が設けられていることにありがたみを感じました。（５組）

戦争のせいで幸せな家族がばらばらになってしまうのが、見ていてとても辛かったです。戦争をするために生まれてきたわけじゃなくて、幸せに過ごすために生まれてきたのに、なんで無差別に殺されて、みんなの幸せが奪われたりするのかがわかりません。最後にあった「戦争はすべての人を不幸にします」「この世界から戦争がなくなりますように…」という言葉は、私たちみんなが思ってることだと思います。沖縄戦がどんなに酷いものだったのか、これからの世界に願うことなどをしっかり頭に入れて、修学旅行ではたくさんのことを学びたいです。（５組）

「さとうきび畑の唄」を見て、感じたことは、沖縄戦がどれぐらい酷かったのか、どんな感じだったのかを見て「こんなに酷い…」と思いました。男の子は戦いに行かないといけない。女の子は怪我をした人を助けたりしないといけないと思うと、辛いなと改めて思いました。罪の無い人までの命を奪う戦争は絶対してはいけない。起こしてはいけないと思いました。小さい子まで巻き込まれ、泥だらけになっている姿を見ると辛かったんやろな。怖かったんやろなとすごく思いました。また女の子が飛び降りた所があって自殺した所が「ここか」と思いました。沖縄に行くときに、しっかりと学びたいと思いました。（５組）